

# 教職員の生徒指導研修《しかり方》について

－ある小学校の取り組みを通じて－

A report of the training of the student guidance about“how to scold”  
the bullying for teachers

濱崎 伸樹

HAMASAKI, Nobuki

武庫川女子大学 学校教育センター紀要

第7号 2022年

## 教職員の生徒指導研修《しかり方》について

—ある小学校の取り組みを通じて—

### A report of the training of the student guidance about “how to scold” the bullying for teachers

濱崎 伸樹\*

HAMASAKI, Nobuki\*

キーワード：生徒指導 研修 しかり方 同僚性

#### 1 はじめに

いわゆる「団塊の世代」の大量退職の影響で、大量採用の時期が続いている。職員室も大いに若返り、学校を動かす中心になっているのは30代の教員である。学校現場では毎年複数以上の教員が新規採用され、ミドルリーダーたちは彼らの育成も担わなければならない。山手台小学校でもその傾向は顕著で、本校が教員生活の始まり、つまり他校の経験がない教員が40%以上を占めている。ここでは、山手台小学校の生徒指導研修の在り方について報告する。

#### 2 若手教員の実情について

本校の若手の教員は総じて真面目である。話を聞いても学生時代、先生に怒られた経験はあまりない、と言う。また、大学の講義でも「生徒指導」に特化したものはなかった、と言う。（「児童理解という授業はありましたが。」と言っている。）そのせいか、若い教員は怒ることも怒られることも苦手な者が多い。アルバイト等の経験も少なく、彼らにとって怒られることなんて「他人事」である。怒られる側の気持ちがわからないままに児童を怒らなければいけない状況になると、加減がわからなかったり、効果がなかったりで自信を失うきっかけにもなる。児童を怒ったり指導する場面では一人ではなければならないことがほとんどなので、授業参観のようなわけにはいかない。小学校の教員に生徒指導の力をつけるのが困難なのはこのあたりに原因があるのではないか。

#### 3 生徒指導研修の狙い

今回の生徒指導研修のテーマは「ロールプレイ」である。単に「生徒指導スキル」の伝達が目的ではない。「怒られる側」の気持ちになること、それを踏まえて「怒り方」を考えることが今回の研修の狙いである。そして、若手の教員同士で「気づき」を共有することで同僚性が高まることも期待して今回の研修を実施した。

#### 4 研修の実際（「児童・生徒指導研修ワークシート」「生徒指導研修《解答編》」参照）

まず、教員同士でペアを組んでもらった。そして、片方の教員（Aとする）にだけワークシートを配布し、枠線の中のセリフをパートナーの教員（Bとする）に言ってもらった。その後、Bの教員にもワークシートを配布し、「言われて嫌だったところ」について線を引かせた。Aの教員は「ここがお

---

\* 茨木市立山手台小学校校長

かしい」と思うところに線を引かせ、ペアでの交流を行った。その後は4人グループに分かれて意見を交流しあった。他の教員が生徒指導をしている現場をほとんど見たことがない若手の教員なので、様々な意見が出て、どのグループも活発に意見交流を行っていた。B側の教員からは「頭ごなしに全否定された気分」や「何も自分の言い分は聞いてもらえなくて落ち込んだ」などの意見が出て、「怒られる側」の気持ちを追体験できたように思う。中でも「何を怒られているのかわからなくなった。」という意見は全員の共感を呼んでいた。最後に講師である校長から「解答編」を配布し、ポイントを説明した。

## 5 研修を終えて

研修に参加した若手教員からは「児童に伝えることを明確にするのは授業でも生徒指導でも同じ」という感想が出ていた。怒るのは児童の成長を促す「手段」である、という点を理解してくれたように思う。児童の成長という「目的」を達成するには、「怒る」より「叱る」という観点が必要である。また、常に冷静に対応しなければならない、という点も学べた研修であったように思う。この研修をきっかけに生徒指導の具体的な方法について職員室で話題に上ることが多くなったように思う。

## 児童・生徒指導研修ワークシート

《ケーススタディ》

\*花子さんから「太郎さんに嫌なことを言われる。学校に行きたくない。」という訴えがありました。先生は太郎さんから話を聞くことになりました。

「花子さんから聞いたけど、どういうことなの?!花子さんの気持ちを考えたことがあるの?!あなた自身は今どんな気持ち?どうして言っちゃったの?あなたには前も言ったよね!何回言ったらわかるの!忘れ物も直っていないし、あなたのお母さんも何を考えているのか、先生、わかりません!あなたはダメな子です。」

太郎さんは学校に来なくなりました…。

《ワーク》

- ①この先生の「まずい点」に線を引き、番号をつけましょう。
- ②それぞれの番号について「どんな点がまずかったのか」を書き出しましょう。
- ③それぞれの番号について「じゃあ、どう言えばよかったか」について書き出しましょう。
- ④グループ内で交流しましょう。

【記入スペース】

## 生徒指導研修《解答編》

「花子さんから聞いたけど、どういうことなの？！花子さんの気持ちを考えたことがあるの？！

① ② ③

あなた自身は今どんな気持ち？ どうして言っちゃったの？ あなたには前も言ったよね！

④ ⑤ ⑥

何回言ったらわかるの！ 忘れ物も直っていないし、あなたのお母さんも何を考えているのか、

⑦ ⑧ ⑨

先生、わかりません！ あなたはダメな子です。」

⑩ ⑪

- ① いきなり情報ソースを知らせるのはNG。保護者や被害児童が一番恐れるのが「仕返し」。
- ② 抽象的な質問はNG。聞き取る際はこちらで5W1Hを把握したうえで行うのが原則。
- ③ 相手の気持ちを考えさせるのは事実確認の後。事実をしっかりと見つめたらおのずと相手のことを考え出すものです。ここで教師が焦ってはいけません。
- ④ 「今どんな気持ち？」と聞かれても、「教師に怒られてうっとうしい」しかないでしょう。ここも事実確認をしっかりとしてから、が原則です。
- ⑤ 質問の対象が今（現在）だったり過去（その時）になったりしたら、子どもは混乱します。動機を聞くときも事実確認をしっかりとした後、が原則です。
- ⑥ 何を言われたのか太郎さんはわかっているのでしょうか？具体的な内容を示すことが原則ですし、過去の指導を持ち出すのは「指導」の段階でなければなりません。
- ⑦ 何回、何を言われたのでしょうか？何を「わかる」のでしょうか？今回の事象に関係があるのでしょうか？こういった言い方は子どもを混乱させるだけです。
- ⑧ 話が変わっています。一つの事象で他の事や過去のことを持ち出しては、子どもの反省の気持ちを薄めるだけです。「1事1時」が原則です。
- ⑨ 自分がやったことで自分の親が責められることに子どもは我慢できません。「親の気持ちを考える。」はOKですが、「聞き取り」の段階ではダメでしょう。
- ⑩ こういった突き放した言い方はNGです。「見放された」と感じた子どもには教師の指導は入らなくなるものです。
- ⑪ 自分のやったことを怒られるのではなく、自分の人格すべてを否定されたら、子どもは心を閉ざしてしまいます。人格否定の言葉は絶対NGです！太郎さんがかわいそうです。

ケーススタディは極端な例ですが、事実確認の聞き取りの時に「指導」のニュアンスが入ってしまうのはよくあることです。「聞き取り」に「指導」が混在してしまうと、肝心の「指導」本番で子どもに話が入りにくくなってしまいます。「聞き取り」はクールに、「指導」は熱く、といったところでしょうか。それと教師の話を短くすることも「指導」のポイントの一つでしょう。